

都市再生整備計画 事後評価シート
佐久平駅南地区

令和6年3月

長野県 佐久市

様式2-1 評価結果のまとめ


都道府県名	長野県	市町村名	佐久市	地区名	佐久平駅南地区			面積	56.5ha			
交付期間	平成29年度～令和4年度	事後評価実施時期	令和5年度	交付対象事業費	2,740.5百万円	国費率	0.490					
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【道路】佐久平駅南1号線、佐久平駅南2号線、区20-1号線、特6号線 【公園】砂田公園 【地域生活基盤施設】佐久平サンスクエア、地域防災施設(発電施設)、佐久平駅前広場(バスシェルター)、【高質空間形成施設(地域交流センター)】佐久平南交流センター									
		提案事業										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	【地域生活基盤施設】横断歩道橋 【高質空間形成施設】エスカレーター	・バリアフリーの観点から路上横断施設(横断歩道)とすることとした。 ・佐久平駅周辺のあり方を含めた計画を検討するため実施時期が未定となった。			影響なし					
		提案事業	【地域創造支援事業】佐久の魅力マップ作成	・佐久平駅南地区全体の整備及び今後の活用方法を検討し、その内容に即した魅力マップの作成を一体的に行うため、削除した。			影響なし					
	新たに追加した事業	基幹事業	【高質空間形成施設】シンボル軸形成	・まちなみ整備方針において、シンボル軸と位置付け、歩道植栽に加え歩行者空間の高質化整備へ変更した。			影響あり 歩行者・自転車通行量を「目標を定量化する指標」として追加した。					
		提案事業	なし									
交付期間の変更	当初	平成29年度～平成33年度(令和3年度)	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
変更		平成29年度～令和4年度										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合見)	フォローアップ予定時期	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	JR佐久平駅乗客数	人/日	2,937	H27	3,149	R4	2,641	×	あり ● なし	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年から地域間交流が制限されたことにより、鉄道利用者が大幅に減少した。しかし、令和5年に5類感染症へ移行し、経済活動や日常生活が以前の水準に戻りつつある。加えて、北陸新幹線の敦賀延伸(令和6年3月)が予定されていることや、住宅や商業施設の建設が進むことにより新幹線利用者の増加が見込まれる。	令和6年8月
	指標2	佐久平駅南地区内人口	人	316	H28	360	R4	436	○	あり なし	集合住宅等が建築され、当該区域内の人口が増加した。今後も当該地区の住宅建設が見込まれることから人口が増えると見込まれる。	
指標3	歩行者・自転車数	人/12h	617	R1	717	R4	512	×	あり ● なし	新たに商業施設が出店しつつあるが、住宅や宿泊施設の建築とそれに伴う地域内人口の増加は今後生じると考える。加えて、植樹された木々はまだ小さく、夏期の遮陽効果が弱いことに加え、猛暑が要因となり歩行者・自転車通行量は見込みより減少した。		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合見)	フォローアップ予定時期	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	佐久平南地区の歩行者・自転車通行量	人/12h	-			419				特6号線(歩行者専用道路)や区20-1号線、佐久平サンスクエアなどが整備され、佐久平駅の利用者、近隣住民や買い物来訪者等が散策路として通行がみられるようになった。	
	その他の数値指標2	佐久平サンスクエアでのイベント回数	回	-			20 (令和5年4月から10月)				佐久平サンスクエアが整備され、近隣の商業施設と連携したイベントが土日祝日を中心に開催されるようになった。	
	その他の数値指標3											
その他の数値指標4												
4) 定性的な効果発現状況	佐久平駅南地区では関連事業である土地区画整理事業により、道路等公共施設の整備、宅地造成、多様な商業施設が立地し、“歩いて暮らせるまち”ができてきた。これらは、佐久市立地適正化計画にて設けた居住誘導区域内の人口増加につながっている。また、都市機能誘導区域としても日常生活に係る商業施設や公園・広場、交流施設が機能集積と充実につながっている。											

5) 実施過程の評価	実施内容	実施状況			今後の対応方針等
		都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	
	モニタリング	-	-	-	-
	官民連携による取組	樋橋地区まちづくり推進委員会 まちなみ整備方針公表+アンケート	-	-	-
	持続的なまちづくり体制の構築	-	-	-	-


様式2-2 地区の概要

佐久平駅南地区(長野県佐久市) 都市再生整備計画事業の成果概要


まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:持続可能なまちの中核として、まち・ひと・しごとの好循環を生み出すまちづくりの形成を目指す。 目標①:立地適正化計画の具現化に向けて、都市基盤整備による安全・快適なまちづくり 目標②:環境にやさしく、健康的な生活が送れる生涯活躍のまちづくり 目標③:佐久市の玄関口として、周辺施設と連携し、既存市街地から新市街地へ続く道路を軸とした「あるきたくなるまち」	JR佐久平駅乗客数	単位:人/日	2,937	H27	3,149	R4	2,641	R4
	佐久平駅南地区内人口	単位:人	316	H28	360	R4	436	R5
	歩行者・自転車数	単位:人/12h	617	R1	717	R4	512	R5
	(その他の指標1)佐久平南地区の歩行者・自転車通行量	単位:人/12h	-	-	-	-	419	R5
	(その他の指標2)佐久平サンスクエアでのイベント回数	単位:回	-	-	-	-	20	R5




佐久平駅南1号線



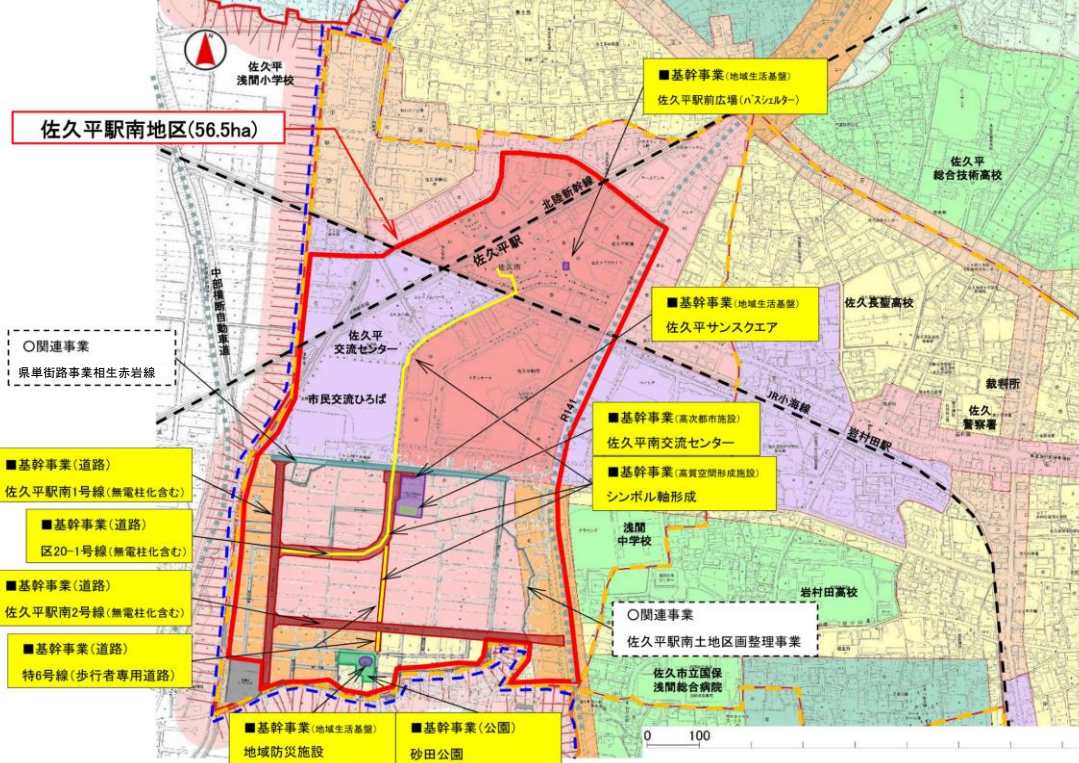
佐久平駅南2号線



特6号線(歩行者専用道路)



砂田公園




佐久平駅南地区(56.5ha)


■基幹事業(地域生活基盤)
 佐久平駅前広場(バスシェルター)
 ■基幹事業(地域生活基盤)
 佐久平サンスクエア
 ■基幹事業(高次都市施設)
 佐久平南交流センター
 ■基幹事業(高質空間形成施設)
 シンボル軸形成
 浅間中学校
 ○関連事業
 佐久平南土地区画整理事業
 ■基幹事業(地域生活基盤)
 地域防災施設
 ■基幹事業(公園)
 砂田公園

〇関連事業
 泉車街路事業相生赤岩線
 ○関連事業
 プレいまいキング推進事業
 ○関連事業
 まちの使い方検討事業
 □提案事業(事業活用調査)
 事後評価


凡例
 ■ 基幹事業
 □ 提案事業
 ○ 関連事業




バスシェルター



佐久平サンスクエア



佐久平南交流センター



シンボル軸形成

まちの課題の変化

- ・スーパーやホームセンター、飲食店などの商業施設が立地し、地域の雇用が生まれた。さらに、佐久市内の他周辺市町村から買い物客等が訪れ、新たな交流、賑わいが生まれつつある。
- ・区20-1号線(夢佐久通り)や特6号線(歩行者専用道路)がシンボル軸として完成した。街路樹とベンチを多く配置し、近隣住民の散歩や買物等の来訪者の利用がみられる。
- ・佐久平サンスクエア、砂田公園が完成し、商業施設の来訪者や近隣住民、子育て世代が利用されている。
- ・シンボル軸への植樹や佐久平サンスクエア、砂田公園の整備などの緑化を通じて、ゆとりのある居心地の良い空間を形成した。
- ・砂田公園内のシェルター屋根に太陽光発電施設を設置した。緊急時の非常用電源として活用できる。
- ・佐久平駅南地区の整備や商業施設等の建設により、歩行者・自転車、自動車のいずれも通行量が増えつつあり、横断歩道や信号機の設置について要望が寄せられている。
- ・歩行者や自転車の利用者を増やす取り組みについて検討する必要がある。
- ・佐久平駅周辺の公園・広場として、ミレニアムパーク、市民交流ひろば、佐久平サンスクエアが整備されたが、各施設の利用状況に差が生じている。このため、各施設の役割(機能分担)について整理し、効果的な活用方法を検討する必要がある。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・官民一体となってシンボル軸や公園を中心としたまちを活用し、管理していくことを目指す。
- ・区20-1号線(夢佐久通り)や佐久平サンスクエア、市民交流ひろば等を活用した集客イベントの開催や、事業者等と連携したまちづくりの取り組みにより、賑わいの創出と市民や来訪者の交流を育む。
- ・駅利用者等の状況や意見を把握し、駅周辺に必要な機能を整理する必要がある。
- ・公園・緑地の緑を守りつつ、憩いの場、交流の場として利用を推進する。公園・緑地の利活用方法について、事業者や地域住民等を交えつつ検討を行う。
- ・現在は、横断歩道および信号機の設置要件を満たしていないが、今後も交通量や状況を注視しながら、必要に応じて道路管理者や警察と協議を行う。
- ・自動車からの利用転換により、健康増進や環境負荷の軽減、渋滞緩和、来訪者の市内での周遊支援など多様な効果が期待されることから、まちづくりと一体となって取り組みについて検討を行う。